マーマフーズの 食卓彩菜

Vol.19
平成 27 年 5 月号

マーマフーズ代表の伊藤です。

この度は、「毎日のお惣菜」頒布会をご利用いただきまして誠にありがとうございます。

お客さま方の食卓に彩を添える季節の旬のお惣菜を、今年もひと品ひと品、まごころを込めてお届けいたしますので、味付けやメニュー、サービス等についてお気づきの点がございましたら、同封のはがきなどで、何なりとご意見を賜りたく、宜しくお願い申し上げます。

前回に引き続き東日本大震災でのお話をしたいと思います。

釜石もひどい状況だと思いましたが、鵜住居はもっと悲惨で町そのものが無くなっておりまして、いったい何処を走っているのか全然解らない状態でした。ようやく辿り着いた大槌町は壊滅と報道された通り、町は無くなり火災であたり一面真っ黒で、焼け焦げた臭いが充満して、あたかも戦争でもあったかの様でした。支援物資を何処に置けば良いかと問い合わせたところ、山田町へは自衛隊が今ようやく通れるようになったばかりで、まだ支援物資も届いていないので、そちらに直接行けるかと聞かれ、早速に山田町に向かいました。

山田町も大槌町と同じ壊滅的な被害を受けており、自衛隊が退けた瓦礫で、道の脇が壁の様になっておりました。

焼け跡の瓦礫の奥の小高い丘に旗がたなびいている白い建物があり、町役場だと直ぐにわかりました。役場に行き支援物資のリストを渡すと、しばらくしてから、岬で孤立している部落があるので今すぐ届けてくれないかと以来され、船越半島に直ぐに向かいました。

自衛隊が道を作っている最中でしたが、防波堤が崩れ水浸しで本当に行けるのか心配になりましたが、なんとか無事に着くことが出来ました。

丁度、自衛隊が着いたばかりの毛布や水等の救援物資を住民と一緒に体育館に運んでいた所で、私達の支援物資の食糧と飲料、弊社のお惣菜、粉ミルクに哺乳瓶、ティッシュにトイレットペーパー、紙おむつ、下着類にカイロや熱さまシート、電気ヒーター等は、避難してきていた岬の反対側の太平洋側の被災した人たちにも「震災以来四日間、初めての支援です」と本当に喜ばれました。

帰る時には喉はカラカラでしたし、カメラも持参していきましたが、撮ろうという気持ちは一切おこりませんでした。

その後も、十数回程の支援物資を届けに行きました。

その度に、震災での色々な出来事やドラマの様な奇跡的な事も悲しい事も色々お話をお聞きしました。

未曾有の被害をもたらした東日本大震災は、かけがえのない尊い生命が奪われ、そこに暮らす何十万人もの人生を一瞬にして変えてしまいました。

初めて被災地を見て復旧なんて当分出来ないだろうと感じましたが、現在の状況をみると人間の想いと力はすごいものだとあらためて思います。

被災地の復興に少しでもお役に立てればと思い、「毎日のお惣菜」の頒布会を始めました。

皆様の「食」のお手伝いをさせていただけますよう努力してまいります。

引き続きご愛顧の程、宜しくお願い申し上げます。

元気な新人と受け継がれる職人魂

花巻だより

先月も書きましたが、弊社にも４月より製造、総務、栄養士にも新入社員が入社いたしました。先日、製造のリーダーの統括が朝礼時に「新人さん達の、明るく大きな声の挨拶に初心を思い出し、さらに元気をもらっている」と話されました。休憩時間の明るい笑い声にも、こちらまでつい笑ってしまいます。これから仕事をしていく上で何度となく壁にぶち当たるとも思います。人材は会社の宝です。過保護ではなく、大事に育てていけるように先輩従業員もわが身を振り返りながら共に成長していきたいと思っています。新人さんが入ってくる中、弊社の宝のベテラン社員さんが３月に退社されました。以前に「製造スタッフ」で紹介いたしました「職人」小田島里利さんです。小田島さんは一般の惣菜の商品開発・製造の他、お客様の中にはお召し上がりになった方もいらっしゃると思いますが「ごんぼほり団子」「ほたるのおしり」などちょっと変わった商品の商品開発に深く携わって頂きました。小田島さんは退職のあいさつで「大変な仕事だな～と思いながらも、いろいろな新しいことにチャレンジさせていただきました。チャレンジする場を与えられたことに感謝します。」とお話になりました。今後は参与として試作等をお願いいたしますが、製造の一線からは退かれます。本当にお疲れ様でした。今月は「製造スタッフ」も関連記事です。併せてお読みください。